

# 日语分级阅读

**中级** 适用于N3N2级别学习者


赠  
音频  
日汉对照

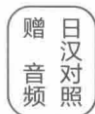


## 小狐狸阿权



日语分级阅读研究组 编

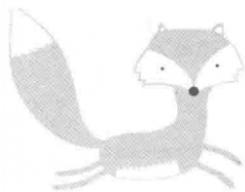
 华东理工大学出版社  
EAST CHINA UNIVERSITY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY PRESS



日语分级阅读 ②  
适用于N3N2级别学习者

# 小狐狸阿权

日语分级阅读研究组 编



华东理工大学出版社  
EAST CHINA UNIVERSITY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY PRESS

· 上海 ·

图书在版编目(CIP)数据

日语分级阅读. 小狐狸阿权: 中级: 赠音频: 日  
汉对照 / 日语分级阅读研究组编. — 上海: 华东理工  
大学出版社, 2022.11

ISBN 978-7-5628-6939-9

I. ①日… II. ①日… III. ①日语-阅读教学-自学  
参考资料 IV. ①H369.4

中国版本图书馆CIP数据核字(2022)第170911号

---

策划编辑 / 王一佼

责任编辑 / 金美玉

责任校对 / 陈 燕

装帧设计 / 王 翔

插 画 / 施 纹

出版发行 / 华东理工大学出版社有限公司

地址: 上海市梅陇路130号, 200237

电话: 021-64250306

网址: [www.ecustpress.cn](http://www.ecustpress.cn)

邮箱: [zongbianban@ecustpress.cn](mailto:zongbianban@ecustpress.cn)

印 刷 / 上海盛通时代印刷有限公司

开 本 / 890mm × 1240mm 1/32

印 张 / 1.125

字 数 / 32千字

版 次 / 2022年11月第1版

印 次 / 2022年11月第1次

定 价 / 15.00元

---

版权所有 侵权必究

# 目 录

ごん <small>ぎつね</small> 狐 .....	002
小狐狸阿权 .....	003

# 目录

ごん <small>ぎつね</small> 狐 .....	002
小狐狸阿权 .....	003

# ごん狐ぎつね

にいみなんさち  
新美南吉



扫一扫, 听音频

これは、わたし私ちいが小さいときに、むら村のもへい茂平というおじい  
さんきから聞いたおはなし話です。

むかしは、わたし私たちのむら村のちか近くの、なかやま中山というところ  
にちい小さなおしろ城があつて、なかやま中山さまというおとのさまが、  
おられたそうです。

そのなかやま中山から、すこ少しはなれた山の中に、「ごんごんぎつね狐」と  
いうぎつね狐がいました。ごんは、ひとり一人こぎつねぼっちの小狐で、し  
だのいっばいしげ茂もりったなか森の中にあな穴をすほって住んでいま  
した。そして、よる夜でもひる昼でも、あたりのむら村へで出てきて、い  
たずらばかりしました。はたけへはい入いもって芋をほりちらし

## 生词短语

茂る(しげる): ②[自动] 繁茂

## 小狐狸阿权

这是我小时候从村里一位叫茂平的爷爷那里听来的故事。

从前，我们村附近有一个叫中山的地方，那里有座小小的城堡，据说曾经住过一位姓中山的老爷。

在离中山住处不远的山里，有一只名叫“阿权”的小狐狸。阿权孤身一人，在长满蕨类植物的茂密森林里挖了个洞住在里面。而且，无论白天黑夜，它都会跑到附近的村子里，净做些恶作剧。比如说，跑到人家地里把红薯刨出来，扔得到处都是；在晒干的油菜秆上点火；把村民屋后晒的

たり、菜種<sup>なたね</sup>がらの、ほしてあるのへ火<sup>ひ</sup>をつけたり、百<sup>ひゃく</sup>姓<sup>しょうや</sup>家の裏手<sup>うらて</sup>につるしてあるとんがらしをむしりとして、  
 いったり、いろんなことをしました。

或秋<sup>あるあき</sup>のことでした。二、三日<sup>に さんにちあめ</sup>雨がふりつづいたその  
 間<sup>あいだ</sup>、ごんは、外<sup>そと</sup>へも出<sup>で</sup>られなくて穴<sup>あな</sup>の中<sup>なか</sup>にしゃがんで  
 いました。

雨<sup>あめ</sup>があがると、ごんは、ほっとして穴<sup>あな</sup>からはい出<sup>で</sup>まし  
 た。空<sup>そら</sup>はからっと晴<sup>は</sup>れていて、百舌鳥<sup>もず</sup>の声<sup>こえ</sup>がきんきん、  
 ひびいていました。

ごんは、村<sup>むら</sup>の小川<sup>おがわ</sup>の堤<sup>つつみ</sup>まで出<sup>で</sup>て来<sup>き</sup>ました。あたりの、  
 すすきの穂<sup>ほ</sup>には、まだ雨<sup>あめ</sup>の雫<sup>しずく</sup>が光<sup>ひか</sup>っていました。川<sup>かわ</sup>  
 は、いつもは水<sup>みず</sup>が少<sup>すく</sup>ないのですが、三日<sup>みっか</sup>もの雨<sup>あめ</sup>で、水<sup>みず</sup>が、  
 どっとましていました。ただのときは水<sup>みず</sup>につかること  
 ない、川<sup>かわ</sup>べりのすすきや、萩<sup>はぎ</sup>の株<sup>かぶ</sup>が、黄<sup>き</sup>いろくにござ

### 生词短语

つるす(つるす): ①[他动]吊, 悬

しゃがむ: ①[自动]蹲下, 蹲

雫(しずく): ③[名]水滴

干辣椒揪掉——总之它干了各种淘气事。

有一年秋天，一连下了两三天雨。这期间，阿权一直待在窝里没法出门。

雨一停，阿权就如遇大赦地钻了出来。碧空如洗，不时传来伯劳鸟唧唧的叫声。

阿权一直跑到了村里小河的堤坝上。周围的芒草的穗子上还挂着水滴，晶莹透亮。平时河水的水一直不太多，可一连下了三天的雨，水一下子涨了起来。芒草、胡枝子平时都不会没在河水里，现在也都被浑浊发黄的水冲得倒向一边，凌乱不堪。阿权沿着河岸上泥泞的小路往下游走。

みず よこ  
水に横だおしになって、もまれています。ごんはかわしも  
ほう ある  
方へと、ぬかるみみちを歩いていきました。

ふとみると、川の中に人がいて、何かやっています。  
ごんは、見つからないように、そうっと草の深いところ  
ある  
へ歩きよって、そこからじつとのぞいてみました。

「兵十だな」と、ごんは思いました。兵十はぼろぼ  
ろの黒いきものをまくし上げて、腰のところまで水に浸  
りながら、魚をとる、はりきりという、網をゆすぶって  
いました。はちまきをした顔の横っちょうに、まるい萩の  
は いちまい おお ほくろ  
葉が一枚、大きな黒子みたいにへばりついていました。

しばらくすると、兵十は、はりきり網の一番うしろ  
の、袋のようになったところを、水の中からもちあげ

### 生词短语

浸る(ひたる): ①②[自动]浸, 泡; 沉迷,  
沉浸

### 重点语法

N2 ~ところを: “正当……的时候”

忽然，它看到河里有人，那人不知道在干什么。阿权怕被人看见，就悄悄走进草丛深处，从里面往外瞧。

“是兵十啊。”阿权想。只见兵十卷起破破烂烂的黑色和服的下摆，整个人泡在齐腰深的水中，正摇晃着一张捕鱼用的笼网。他头上裹着布巾，一侧脸上贴着一片圆圆的胡枝子叶，看上去就像一颗大大的黑痣。

过了好一会儿，兵十把笼网最后面的袋状部分从水里提了出来。里面乱七八糟什么都有，草根、草叶、烂树枝等，

ました。その中<sup>なか</sup>には、芝<sup>しば</sup>の根<sup>ね</sup>や、草<sup>くさ</sup>の葉<sup>は</sup>や、くさった木<sup>き</sup>ぎれなどが、ごちゃごちゃはいつていましたが、でもところどころ、白<sup>しろ</sup>いものがきらきら光<sup>ひか</sup>っています。それは、太<sup>ふと</sup>いうなぎの腹<sup>はら</sup>や、大<sup>おお</sup>きなきすの腹<sup>はら</sup>でした。兵<sup>ひょうじゅう</sup>十は、びくの中<sup>なか</sup>へ、そのうなぎやきすを、ごみと一<sup>いっしょ</sup>緒<sup>しょ</sup>にぶちこみました。そして、また、袋<sup>ふくろ</sup>の口<sup>くち</sup>をしばって、水<sup>みず</sup>の中<sup>なか</sup>へ入<sup>い</sup>れました。

兵<sup>ひょうじゅう</sup>十はそれから、びくをもって川<sup>かわ</sup>から上<sup>あが</sup>り、びくを土<sup>ど</sup>手<sup>て</sup>においといて、何<sup>なに</sup>をさがしにか、川<sup>かわ</sup>上<sup>かみ</sup>の方<sup>ほう</sup>へかけていきました。

兵<sup>ひょうじゅう</sup>十がいなくなると、ごんは、ぴよいと草<sup>くさ</sup>の中<sup>なか</sup>から飛<sup>と</sup>び出<sup>だ</sup>して、びくのそばへかけつけました。ちよいと、いたずらがしたくなつたのです。ごんはびくの中<sup>なか</sup>の魚<sup>さかな</sup>をつかみ出<sup>だ</sup>しては、はりきり網<sup>あみ</sup>のかかっているところより下<sup>しも</sup>手<sup>て</sup>の川<sup>かわ</sup>の中<sup>なか</sup>を目<sup>め</sup>がけて、ぽんぽんなげこみました。

### 重点语法

N3 ～ては：“—……就……”

但也有些白花花亮闪闪的东西——那是又肥又大的鳗鱼和沙尖鱼的肚皮。兵十把这些鳗鱼和沙尖鱼与草根树叶一起倒进了鱼篓里。接着，他扎紧袋口，又把笼网放进了水里。

然后，兵十拿着鱼篓上了岸，把鱼篓放在了岸上。接着他像是要找什么似的，又向上游走去了。

兵十走了之后，阿权嗖的一下从草丛里跳了出来，走到鱼篓边上。突然间它又想搞点恶作剧了。于是，阿权把鱼篓里的鱼都抓了出来，一条一条地扔进了笼网下游的河里。每条鱼都扑通一声，潜入了浑浊的河水中。

どの魚さかなも、「とぼん」と音おとを立てながら、にごった水みずの中なかへもぐりこみました。

一番いちばんしまいに、太ふというなぎをつかみにかかりましたが、何なにしろぬるぬるとすべりぬけるので、手てではつかめません。ごんはじれったくなくて、頭あたまをびくの中なかにつつこんで、うなぎの頭あたまを口くちに銜くわえました。うなぎは、キュッとい言くってごんの首くびへまきつきました。そのとたんに兵ひょう十じゅうが、向むうから、

「うわあ、ぬすと狐ぎつねめ」と、どなりたてました。

ごんは、びっくりして飛とび上あがりました。うなぎをふりすててにげようとしたが、うなぎは、ごんの首くびにまきついたままはなれません。ごんはそのまま横よこつとびにとび出だして、一いっ生しょう懸命けんめいに、逃にげていきました。

ほら穴あなの近ちかくの、はんの木きの下したでふりかえって見みまし

### 生词短语

何しろ(なにしろ): ①[副]无论怎么说, 总之

銜える(くわえる): ②[他动2]衔, 叼

最后只剩了一条特别肥大的鳗鱼，浑身滑溜溜的，用手抓不住。阿权心里着急，就把脑袋伸进鱼篓里，用嘴衔住鳗鱼。鳗鱼呼啦一下整个身子绕住了阿权的脖子。就在这时，兵十发现了这里的情况。

“哇，你这只贼狐狸！”兵十从远处大喝一声。

阿权吓得跳了起来。它想甩掉鳗鱼逃走，可是鳗鱼缠得紧紧的。阿权就这么闪到了一边，然后拼命逃跑了。

终于，它跑到了自己窝边的赤杨树下，回头一看，兵十

たが、<sup>ひょうじゅう</sup>兵十<sup>お</sup>は追っかけては来ませんでした。

ごんは、ほっとして、うなぎの<sup>あたま</sup>頭をかみくだき、やっ  
とはずして穴のそとの、<sup>くさ</sup>草の<sup>は</sup>葉の<sup>うえ</sup>上にのせておきました。

## 二

<sup>とお</sup>十日ほどたって、<sup>やすけ</sup>ごんが、<sup>ひやくしやう</sup>弥助という<sup>いえ</sup>お百姓の家の  
<sup>うら</sup>裏を<sup>とお</sup>通りかかりますと、<sup>き</sup>その、いちじくの木の<sup>か</sup>かげで、  
<sup>やすけ</sup>弥助の<sup>かない</sup>家内が、<sup>かじや</sup>おはぐろをつけていました。<sup>しん</sup>鍛冶屋の<sup>しん</sup>新  
<sup>べえ</sup>兵衛の<sup>いえ</sup>家の<sup>とお</sup>うらを通ると、<sup>しんべえ</sup>新兵衛の<sup>かない</sup>家内が<sup>かみ</sup>髪をすいてい  
ました。ごんは、

「ふふん、<sup>むら</sup>村に<sup>なに</sup>何かあるんだな。」と、<sup>おも</sup>思いました。

「<sup>なん</sup>何だろう、<sup>あきまつり</sup>秋祭かな。<sup>まつり</sup>祭なら、<sup>たいこ</sup>太鼓や<sup>ふえ</sup>笛の<sup>おと</sup>音がしそ  
うなものだ。それに<sup>だいいち</sup>第一、<sup>みや</sup>お宮に<sup>た</sup>のぼりが<sup>た</sup>立つはずだが。」

こんなことを<sup>かんが</sup>考えながらやっ<sup>き</sup>て来ますと、いつの<sup>ま</sup>間に  
か、<sup>おもて</sup>表に<sup>あか</sup>赤い<sup>いど</sup>井戸のある、<sup>ひょうじゅう</sup>兵十の<sup>いえ</sup>家の<sup>まえ</sup>前へ来<sup>き</sup>ました。  
その<sup>ちい</sup>小さな、<sup>いえ</sup>こわれかけた<sup>なか</sup>家の中<sup>おおぜい</sup>には、<sup>ひと</sup>大勢の人があつ  
まっていました。よそ<sup>きもの</sup>いきの<sup>き</sup>着物を<sup>こし</sup>着て、<sup>てぬぐい</sup>腰に<sup>ひ</sup>手拭を  
さげたりした<sup>おんな</sup>女<sup>おもて</sup>たちが、<sup>ひ</sup>表の<sup>かまど</sup>かまどで<sup>ひ</sup>火を<sup>ひ</sup>たいしてい  
ます。<sup>おお</sup>大きな<sup>なべ</sup>鍋<sup>なか</sup>の中<sup>なに</sup>では、<sup>に</sup>何か<sup>に</sup>ぐずぐず<sup>に</sup>煮<sup>に</sup>えていました。

并没有追过来。

阿权松了一口气，于是把鳗鱼的脑袋咬碎，并把鳗鱼甩了下来，然后就那么放在窝边的草叶上了。

## 二

过了十来天，阿权从一户叫弥助的农民家后面经过的时候，看见弥助的老婆正在无花果树下染黑齿<sup>1</sup>。然后它经过铁匠新兵卫家的时候，又看见新兵卫的老婆在梳头。

“看来村里有事要发生了呢。”阿权想。

“会是什么事呢？秋收节吧。可要是过节的话，应该会敲鼓吹笛什么的。而且应该会先在神社那里竖起鲤鱼旗吧。”

阿权一边这么想着一边往前走，不知不觉间来到了兵十家，兵十家门前有一口红色的水井。那个又小又破的屋子里竟然聚了好多人。女人们穿着出门才穿的和服，腰里别着手巾，正在外面的灶上烧火。一口大锅里，正咕嘟咕嘟地煮着什么东西。

<sup>1</sup>日本旧俗，将牙齿染黑，尤其在已婚妇女间盛行，明治维新之后被禁止。